

製錬事業における環境負荷の全体像

三井金属グループは、事業活動を通じて約163万トンのエネルギー起源CO₂を排出しています。

このうち、製錬事業が全体の約7割を占めています。

ここでは、製錬事業の原料およびエネルギーの投入量(INPUT)と製品および排出量(OUTPUT)についてまとめています。(*)

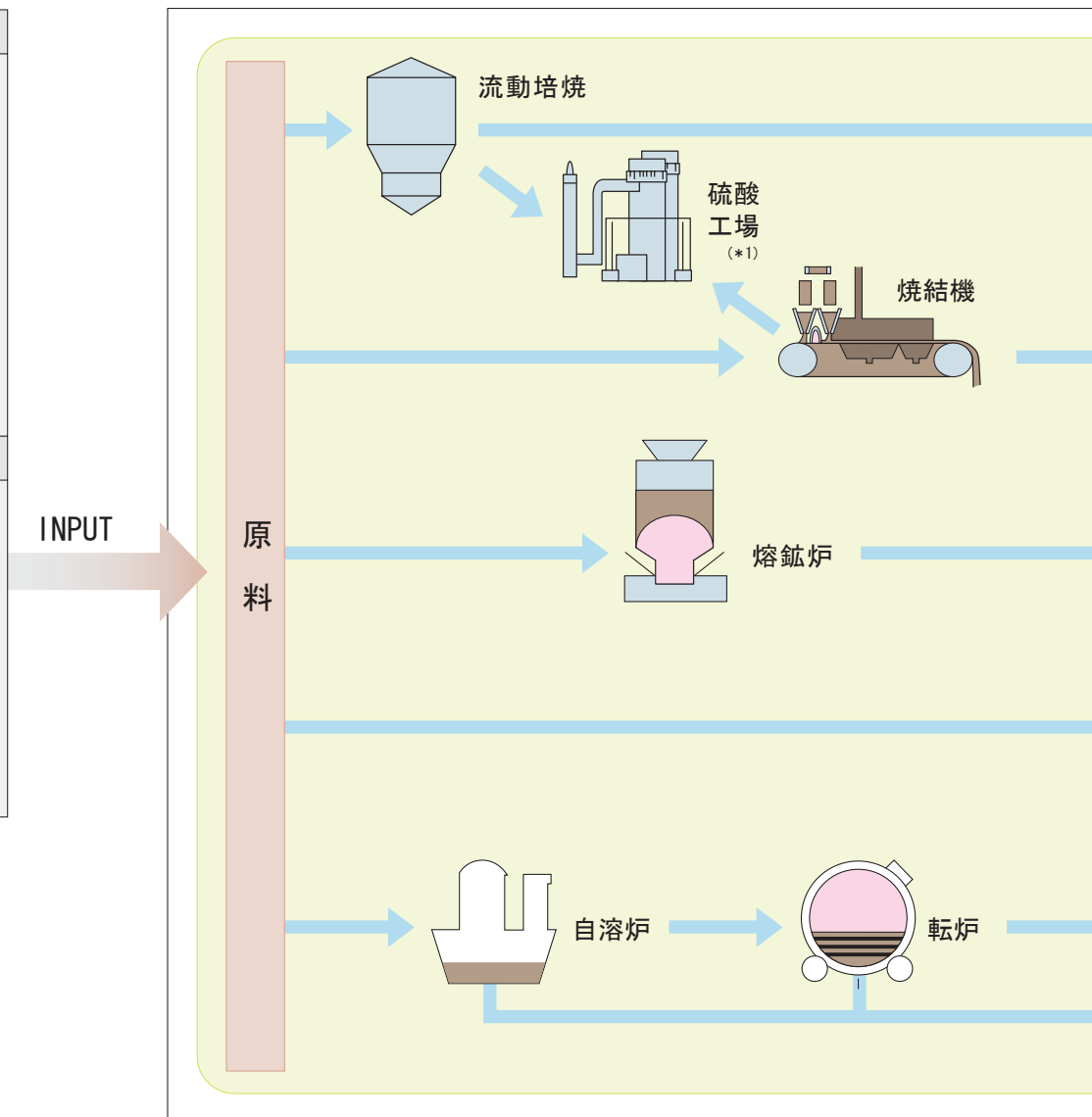
*集計は、主に八戸製錬(株)、神岡鉱業(株)、彦島製錬(株)、竹原製錬所、日比製錬所の5所社を対象としています。

製錬では大量の電力を使用することが大きな特徴です。増産に伴い、電力の使用量も増大しています。

一方、原料には、リサイクル原料を大量に使用しており、資源の循環利用に大きく貢献しています。

INPUT

原料	
	
鉛精鉱・亜鉛精鉱	406,000t
銅精鉱	688,000t
亜鉛系リサイクル原料	116,000t
鉛系リサイクル原料	46,400t
銅系リサイクル原料	216,000t
エネルギー	
	
電力	907,000MWh
燃料油	23,700kl
燃料ガス	7,670t
石炭・コークス	128,000t



- (*1) 発生したSOxガスを硫酸に転化する工場。転化した硫酸は肥料原料や工業薬品用として出荷している。
- (*2) 亜鉛と鉛の同時製錬が可能な溶鉱炉。
- (*3) ISP炉により産出された粗亜鉛を精製工場にて純度を高めたもの。
- (*4) ISP炉により産出された粗亜鉛を精製したもの。

OUTPUT

大気		PRTR 物質	廃棄物
	CO2	1,100,000t	
	SOx	140t	
	NOx	350t	
		120t	

OUTPUT 製品

	電気亜鉛・精留亜鉛	242,000t
	電気鉛	62,900t
	電気銀	255t
	電気金	16t
	電気銅	261,000t
	蒸留亜鉛	

